

コアエレメントと集約されたコアエレメント

番号	作成者	タイトル	コアエレメント	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	B-1	B-2	B-3	C-1	C-2	C-3	C-4	D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	引用数
				環境と経済の統合を目指すアプローチ	地域共生コミュニティ	エコシステムサービスの持続的活用	地球共生型マインドセットの保持	国際社会の不安定化	環境・経済・福祉の重層的なガバナンス(空間軸)	環境・経済・福祉の時間的統合(時間軸)	環境・経済・福祉の統合	エネルギー価格1バレル300ドルの世界	アジアとの共生、日本の産業の戦略的撤退	国土利用の再配置、戦略的撤退	持続的幸福	人口圧力と資源問題、環境負荷	脱格差社会、国土と心の荒廃を避ける	リニューアブルな人口構造、再生産能力、次の世代を生み出す力	伝統と技術に基づく新しい地域主義、日本の地域社会のデザイン	中国に何が書けるか？中国に誇れる日本(日本の過去経験とこれからの挑戦)	
1	01安井先生	(1)再生可能エネルギー社会	どのくらい投資ができるか、どのくらい優遇措置ができるか。																		1
2	01安井先生	(2)国際社会の特組み	多国間主義への回帰 / ナショナリズムの回避 / WTO体制の先行き / FTAの進行																		2
3	01安井先生	(3)新国際機関による金属資源管理	金属資源の枯渇は、エネルギー効率などを下げるので、できるだけ管理したいところ。																		1
4	01安井先生	(4)バイオ燃料と車の台数	車の台数は、2070年ごろ、17億台になるのか、もしも、バイオ燃料に依存したら、一瞬で、地球は丸裸。																		1
5	01安井先生	(5)日本は何で食うのか	金融は無理、何を世界に売るのが、製造業なのか、それとも、世界に誇るリングか。																		2
6	01安井先生	(6)世界人口の動向	80億人を超すか、いつ減少に入るか。																		2
7	01安井先生	(7)イスラムとアフリカの人口	人口増要素の2大要素が共存する場合、人口は自然減に向かうか。																		1
8	01安井先生	(8)キリスト教とイスラム教	一神教同士の近親憎悪を脱却できるか、それには、日本などは多神教の主張をすべきではないのか。																		1
9	01安井先生	(9)米国のユニラテラル主義	国連との協調路線をとらるか、自国のポリシーが世界的にみれば「変人」であることを認めるか。																		1
10	01安井先生	(10)日本の内向きベクトル	常任理事国になれないと、ODAを減らすような社会から脱皮できるか。																		1
11	01安井先生	(11)日本政治家の質の向上	長期的な視点をもった政治家が現れるか、最低でも、10年の視野を。																		1
12	01安井先生	(12)省エネ技術開発	車の燃費改善、今の1.0倍が可能か、効率改善が、さらに進むか、例えば、給湯器、暖房、断熱。																		0
13	01安井先生	(13)資源代替技術	元素枯渇へのどのくらい対応が可能か。																		0
14	01安井先生	(14)マインドセット	経済的価値だけが価値か、無形の価値を認識できるか、共有型の資産を許容するか、サービサイジングの普及は？「量」が治り、「small is beautiful」になるか。																		0
15	02西岡先生	[環境資源立脚経済]	制約ある環境資源に立脚した産業経済(utilityの創造、分配メカニズム)の構築、GDPに変わる指標(国民幸福指標)																		1
16	02西岡先生	[世界初超成熟社会モデル日本]	世界先進超高齢化日本における、自然ストック・時間消費型定常化社会のイメージ																		1
17	02西岡先生	[地域地産]	環境は本来地域で独自、地域価値・地域管理vs中央化、収奪型グローバル化の調整メカニズム																		2
18	02西岡先生	[持続可能性科学技術]	エネルギー(情報も等価)をエンジンとする技術暴走社会を持続可能性維持に徹底的に向かわず理念と手順																		1
19	02西岡先生	[Leapfrog]	途上国開発の持続可能性への早期誘導、貧困と人口・環境資源の悪しき循環からの脱却、グローバル化の光と陰																		1
20	02西岡先生	[環境チャンピオン組織]	アーミッシュ、スウェーデン、ブータン、日本国(対比)																		0
21	02西岡先生	[環境共生社会設計手法]	社会システムlock-in分析とbackcastingによる社会設計手法開発と応用																		0
22	03明日香先生	1. 予防原則が徹底した社会	予防原則が政策を決定する際の基本方針の一つとして認識されている社会																		2
23	03明日香先生	2. 絶対的貧困がない社会	すべての矛盾の根源であり、環境問題との悪循環をもたらし絶対的貧困が存在しない社会																		2
24	03明日香先生	3. 次世代の意見が反映される社会	世代間の公平性を確保するために、次世代代表として意見を述べる人々や制度の構築																		1
25	03明日香先生	4. 環境負荷が目に見える社会	購買者が商品の環境負荷やエネルギー利用に関する情報を瞬時に認識できるようなシステムの構築																		1
26	03明日香先生	5. 分散型エネルギー活用が発展している社会	系統に接続しない発電システムなどが重要な役割を担う社会																		2
27	04太田先生	1. エコモダンな社会(エコ近代化社会)	汚染の防止は生産コスト引き下げに貢献する("pollution prevention pays")だけでなく、将来の汚染対策より安上がり、エコ製品やサービス市場は拡大傾向、環境的に快適で清潔な企業は優秀な人材を誘う。																		0
28	04太田先生	2. エコジカル・ライフスタイルの確立	省エネ生活は「クール」("cool" = 「カッコイイ」); いいものを長く使うことは「スマート」("smart" = 賢く)かつ経済的、自然との触れ合いは人間性を豊かにし、ストレス解消に役立つ。																		1
29	04太田先生	3. ニッチ社会	人とその他の動植物の適正な棲み分けと人間社会における適正な役割分担。																		0
30	04太田先生	4. 低炭素社会	温暖化防止努力を促進させて気候変動の幅を狭め、持続可能な社会の確立と人類文明の延命をはかる。																		0
31	04太田先生	5. 人類の未来像を解明する三次方程式	経済の(質的)発展、社会の発展(福利厚生)の充実した社会と環境の保全を同時に満たせば、同世代間ならびに現代と将来世代間の平衡も視野に入れた「持続可能な社会」形成が可能。																		1
32	04太田先生	6. 地球システムと「人間圏」の持続可能な関係の構築	人間の諸活動は地球システム内の他の主要構成要素(大気圏、水圏、生物圏など)と相互に作用し合っており地球環境を変化させていることの認識に基づいた、人間と自然との関係の再構築が必要。																		0
33	04太田先生	7. 地球環境ガバナンス	人間活動が地球環境システムに影響するようになった現在、地球システム維持のための地球規模の管理体制あるいはグローバルなガバナンス・システムが将来にわたって必要。																		1
34	05沖先生	[飲み水]	どの国に行っても安心して水道の水が飲める世界																		0

番号	作成者	タイトル	コアエレメント	A-1 環境と経済の統合 を目指すアプローチ	A-2 地域共生コミュニ ティ	A-3 エコシステムサー ビスの持続的な活用	A-4 地球共生型マイ ノリティの保持	A-5 国際社会の不安 定化	B-1 環境・経済・福祉 の重層的なガバ ナンス(空間軸)	B-2 環境・経済・福祉 の時間的統合(時 間軸)	B-3 環境・経済・福祉 の統合	C-1 エネルギー価格 バレル300ドルの 世界	C-2 アジアとの共生、日 本の産業の戦略的 撤退	C-3 国土利用の再配 置、戦略的撤退	C-4 持続的幸福	D-1 人口圧力と資源問 題、環境負荷	D-2 脱格差社会、国土 と心の荒廃を避け る	D-3 リニューアブルな 人口構造、再生 産能力、次の 世代を生み出す力	D-4 伝統と技術に基づ く新しい社会、 日本の地域社会 のデザイン	D-5 中国に何が言え るか？ 中国に誇れる日本 (日本の過去経験 とこれからの挑戦)	引用数	
35	05沖先生	[水環境]	水循環を身近に感じ、水遊びができるような春の小川が都会にも流れているような社会																		1	
36	05沖先生	[水資源]	雨水や地下水といった身近な水の恵みを最大限有効に使いまわし、暮らしに生かしている社会																			1
37	05沖先生	[水防災]	多少の氾濫は許容し、浸水頻度に応じた土地利用のゾーニングにより、洪水被害と治水コストを最小限に抑えている社会																			1
38	05沖先生	[食料]	安全でな食料を適正な価格で入手し安心して食べられる世界																			1
39	05沖先生	[地球観測]	環境変動が継続的にモニタリングされ、変動予測に基づき人間社会や生態系への悪影響が事前に回避される社会																			0
40	05沖先生	[エネルギー]	マイクロ水力発電や汚泥・残渣等由来のバイオマスエネルギーを利用した燃料電池などにより途上国の地方でも電気エネルギーが利用できる社会																			2
41	05沖先生	[脱温暖化]	普段の生活で神経質に注意せずとも温室効果ガスの排出負荷が1990年比20%で済むような技術に支えられた暮らし																			0
42	05沖先生	[人口]	乳幼児死亡率が激減し、途上国でも少産になって世界人口の伸びが落ち着いた社会																			2
43	05沖先生	[貿易]	生産や流通に伴う環境への外部不経済が適切に価格に反映されたフェアトレードが実現されている世界																			1
44	06川島先生	1) [アフリカの食料とバイオマスエネルギー]	アフリカの人口増加は深刻、サハラ以南の食料供給が盲く行かない段階でのバイオマスエネルギー生産をどう考えるか。																			0
45	06川島先生	2) [食料、バイオマスエネルギー生産と熱帯林]	次の50年、ブラジルを中心とした南米で食料、エネルギー用バイオマスが増産される。これによりアマゾン流域の熱帯雨林は減少する。																			1
46	06川島先生	3) [食料増産と水質]	南アジア、東南アジアでは次の50年も窒素肥料使用量が増加する。これによる南アジア、東南アジアでの水質の悪化が懸念される。																			1
47	06川島先生	4) [地産地消の崩壊]	次の50年において、食料は現在以上に経済的適地で生産されるようになる。世界の食料基地としての南米が台頭する。																			0
48	06川島先生	5) [アジアの伝統的農村の崩壊と人口の都市集中]	アジアには20億人以上の農民がいる。これは世界の農民の3/4に相当する。経済成長に伴い農民人口は減少し都市に人口が集中する。																			0
49	06川島先生	6) [メガコンディションと日本]	これまで低所得に甘んじていたアジアの20億の農民が工業部門などで働くようになる。程度の差はあるが、アジアの農民は一般にまじめで勤勉。アジアとの共存が重要。日本は少子高齢化の流れの中で、全ての産業を国内に持つ「フルセット社会」から、「得意分野集中社会」への転換が必要。																			1
50	07柴田先生	* システムとしての環境社会、生物(ヒト)、生態系の把握	物質の流れ、エネルギーの流れに加え、それらを制御する情報の流れが社会、生物、生態系では特に重要(温暖化予測は物理化学方程式で解けるが、情報を含めた議論は難しい)。これらを含めたシステムとしての理解に基づく施策の実施が求められる。																			0
51	07柴田先生	* 後戻りできる技術(失敗できる技術)の選択	見通しを誤った時に後戻りできない(失敗が許されない)技術に依存した政策、社会経済の運営は選択すべきでない。例えば地球温暖化など地球環境の悪化に対して我々は修復の技術を持たず、一方地球全体の環境を変えようとするまで人間活動が大きくなってしまったことをしっかり認識した上で、社会経済活動の運営にあたるべき。																			0
52	07柴田先生	* 化学物質毒性(リスク)研究の推進	リスクのわからない状況下での化学物質管理は困難。資源に乏しい日本で科学立国を柱とする限り、新規化学物質開発・利用の推進を可能とする化学物質管理体制の確立が必要で、毒性(オゾン層破壊問題のように、地球環境の健全性の維持、発展までも視野にいれ、「リスク」という言葉の方が適切かもしれない)研究は欠かせない。																			1
53	07柴田先生	* 地球システムの豊良、最大限の利用に基づく社会の構築	持続可能な発展を遂げていくには、自然のサイクルにまかせられるところは任せ、必要な最小限の後押し、下支えをしながら社会・経済システムを構築していくことが必要。																			0
54	07柴田先生	* 網羅的、包括的アプローチ(或いは予想の範囲を超えた視野を持つこと)の重要性	環境、生物、生態系の複雑さと人間の知識の限界、不完全さを抱えずに念頭に、予見できない事象の生起を考慮に入れた監視体制の元での社会経済活動の推進が求められる。																			0
55	07柴田先生	* 2050年も科学立国!	地球という枠の中でどこまでが許されるかを理解しつつ、人間の社会経済活動をきわどく運営していくことが今後求められよう。知の領域を増やし曖昧さを減らす努力が今後も必要と考えられる。																			1
56	08花木先生	[環境共生型社会]	そこに住む人々の生活の質(QOL)が高く保つと同時に環境負荷が低いWin-Win型社会																			1
57	08花木先生	[環境ソリューションを活力にする社会]	環境技術の応用や環境配慮型の社会の再構築を通じて活力を生み出すような人口減少下の社会																			1
58	08花木先生	[サービサイジング社会]	モノよりも機能提供を中心に据えることによって資源消費と環境負荷を低減しつつサービスレベルを低下させない社会																			2
59	08花木先生	[アウトカム指標を用いた環境政策]	BODやNOxのような個別物質の管理指標でなく、市民が求める環境の質を表現できる指標に基づく環境政策																			1
60	08花木先生	[人口減少社会における環境保全の基本戦略]	従来の人口増大下での環境保全と異なり、人口減少・予算制約下での中山間地などの環境荒廃防止の基本戦略																			4
61	08花木先生	[持続可能な消費と生産]	持続可能な生産技術と持続可能な消費の相互促進によって循環型でおかつ環境負荷が低い代謝システムを作り上げる。																			1
62	09原沢先生	[災害リスクフリーの社会]	温暖化は進むが、都市や河川施設整備や管理が進み、また気候・気象予測の精度が向上し、避難が余裕をもってできる。																			1
63	09原沢先生	[温暖化影響を繰り返した農林水産業による地域再生した社会]	高温、多雨を活用した農林業が再興し、中山間地域の再開発が進む。																			0
64	09原沢先生	[地方都市がコンパクト化]	市街地居住が進み、歩いて暮らせる町へ変身、食料やバイオ燃料は郊外から地産地消、旬産旬消が確立。																			2
65	09原沢先生	[IT化が徹底した社会]	在宅勤務、在宅医療、ネットショッピング、ネット会議(国際、国内)、バーチャル体験などITを活用した省エネ・省資源社会が実現。																			1
66	09原沢先生	[エネルギー自給率、食料自給率]	エネルギー、食料、物資を自給できる住宅や団地の開発が進み、エネルギー・食料の自給率がほぼ100%となる。																			2

番号	作成者	タイトル	コアエレメント	A-1 環境と経済の統合 を目指すアプロ ーチ	A-2 地域共生コミュニ ティ	A-3 エコシステムサービ スの持続的な活用	A-4 地球共生型マイン トセットの保持	A-5 国際社会の不安定 化	B-1 環境・経済・福祉の 重層的なガバナ ンス(空間軸)	B-2 環境・経済・福祉の 時間的統合(時間 軸)	B-3 環境・経済・福祉の 統合	C-1 エネルギー価格! バレル300ドルの世 界	C-2 アジアとの共生、日 本の産業の戦略的 撤退	C-3 国土利用の再配 置、戦略的撤退	C-4 持続的幸福	D-1 人口圧力と資源問 題、環境負荷	D-2 脱格差社会: 国土 と心の荒廃を避け る	D-3 リニューアブルな 口構造、再生産力、次 の世代を生み出す力	D-4 伝統と技術に基づ た新しい地域社会 のデザイン	D-5 中国に何が言える か? 中国に誇れる日本 (日本の過去経験 とこれからの挑戦)	引用数
67	09原沢先生	国際分業化が促進したアジア社会	重厚長大作業は中国、韓国、日本は電子情報(IT)産業、サービス産業に特化。																		0
68	09原沢先生	ダブルハイブリッド交通体系	自動車はほぼハイブリッド車となり、軌道と道路を走れるハイブリッドバスが荷物、人を輸送。																		0
69	09原沢先生	外国人が3割を越す社会	外国人留学生・労働者、環境難民を受入、労働力を確保する、会社や研究所では英語でコミュニケーションする社会。																		0
70	09原沢先生	大家族化が有利な社会	3世代住宅、家族による介護、家庭教育など大家族化が有利となる税制や制度の社会																		0
71	09原沢先生		省エネ、省資源、途上国型最適技術など環境にやさしい技術による経済発展																		0
72	10広井先生	'福祉'	環境面での持続可能性をもつと同時に、そこにおいて人々が'豊かさの実感'、'幸福'、'生活の質の高さ'といった意味での'福祉'を享受できる社会。																		1
73	10広井先生	'分配(の公正)'	人間の経済活動の'総量'が環境・資源制約と両立するものであると同時に、資源や富の'分配'の公正なしし平等が達成されている社会。																		1
74	10広井先生	'公 共 私、のバランス'	'私'の原理(市場経済)のみが過剰になるのではなく、'共'(コミュニティ)や'公'(政府やより広い公共性)もバランスよく働いている社会。																		0
75	10広井先生	労働と自由時間	人々が望ましい形で'働く'ことができると同時に、賃金労働なし生産労働のみに価値が置かれるのではなく、自由な時間や余暇を享受できる社会。																		2
76	10広井先生	重層的なガバナンス	ローカル(地域)レベルを基礎としつつ、ナショナル-リージョナル-グローバルという各レベルでのガバナンスが望ましい形で機能している社会。																		1
77	10広井先生	(持続可能な)アジア	21世紀の世界全体の課題を左右する中国を含め、日本がアジアの一国であることを踏まえ、アジア(ないし'持続可能なアジア')という視点が重要。																		1
78	10広井先生	少子化・人口減少	少子化・高齢化の進行もあり2005年から日本は人口減少社会に移行し、多くのアジア諸国も同様の傾向、世界人口を含め人口動態が長期ビジョンの基礎。																		2
79	10広井先生	産業化と国際分業	世界のあらゆる地域が今後産業化・ポスト産業化の道を歩むのか、またそこでの国際分業のあり方はどうあるべきかが地球社会の今後にとって基本課題。																		2
80	10広井先生	'成長'という価値の相対化	'豊かさ'を'経済成長'やGDPのみに求めるのではなく、より広い視点からとらえ実現していける社会(指標のあり方を含む)。																		2
81	10広井先生	'日本'という国の立ち位置	日本はある意味で'北と南'、'東と西(アジアと欧米)'の間に立つ位置にあり、そうした日本の独自性やポジションを生かしたビジョンに。																		0
82	11細田先生	[生産物連鎖制御]	動脈連鎖・静脈連鎖双方をつなげた生産物連鎖の上で、環境負荷とりわけ廃棄物の発生・排出抑制を実現するためにモノのフローを制御すること。																		1
83	11細田先生	[環境配慮設計]	生産物連鎖上で、資源採取・生産・物流・消費・廃棄に関わる環境負荷を抑制するために設計段階で配慮すること。																		1
84	11細田先生	[ハイワード・マテリアル]	物量の投入量・循環量は小さいが、その上に乗せられる付加価値および市場では価値化されない便益が大きいような素材。(資源生産性)																		0
85	11細田先生	[市場と制度のインターフェース]	市場は柔軟で様々なショックを吸収する力があるが、その柔軟性は市場を支える制度の構造・機能に大きく依存する。																		1
86	11細田先生	[生産消費者]	生産者と消費者が1人の中で合体した経済主体、従来の市場経済の分業を超えた主体で、地域貢献・環境価値創造貢献を行う。(アルビントフラー)																		2
87	12森口先生	1. 資源供給の持久度・自給率向上	資源を徹底して再生可能(RenewableまたはRecyclable)なものへとシフトし、持続可能性と自給性を高めた社会 注)自由貿易を否定したり、自給率向上そのものを最としたりするものではないが、国際情勢の不安定さを考えれば、資源セキュリティとしてそのような方向を目指すべきとの考えに基づく。																		0
88	12森口先生	2. 余剰・老朽インフラの発生防止・適正管理	人口減少、財政逼迫化において、本来資産であるべき社会基盤施設が維持管理できず廃棄物化することのないよう、早い段階から対応																		1
89	12森口先生	3. 地圏に埋もれた問題への対応	工場跡地、不法投棄・不適正処分場跡地などの土壌汚染、資源採取に伴う土地劣化など、地圏に埋もれた環境問題への対応。 注)原田幸明氏(物質材料研究機構)の言: '天・地・人のうち、地への関心が薄いのではないか'																		0
90	12森口先生	4. 有害・有用物質の情報管理の向上	含有される物質の情報を製品自身に記録するなど、有害物・有用物の散逸・拡散を最小限とするような情報管理																		1
91	12森口先生	5. 未知リスクの管理	予期せぬ新たな環境リスクの早期発見、早期管理が可能な社会。'慌てることなく、かつ見逃すことなく、正當に怖がる'ことができる社会。非日常的問題(大規模災害、テロなど)を含む。 注) '内前半は合志場一、後半は寺田真彦の表現'																		1
92	12森口先生	6. コンパクトシティを核とする国土の再構築	過疎地からの計画的撤退、市街地の計画的再編等により、高齢者の暮らしやすさと環境面での効率向上の両立が可能な居住形態																		1
93	12森口先生	7. 知的資産と自然資産によるストック型経済	'日本は将来何で食っているか'の解として: 環境技術などの近年の知的資産、歴史・文化と一体となった古来からの自然資産。																		0
94	13山本先生	1. (森林資源管理)	森林資源の成長量と収穫量のバランスが保たれて、健全な森林土壌が維持される社会																		2
95	13山本先生	2. (炭素固定機能)	高い森林の成長量を維持しつつ、動植物の多様性を維持する森林管理システム																		1
96	13山本先生	3. (木材自給率)	化石燃料への依存率を減らし、エネルギー及び木材の自給率をできる限り高める社会																		1
97	13山本先生	4. (山村問題)	森林を適切に管理する山村社会を維持することのできる雇用と生活基盤がある社会																		1
98	13山本先生	5. (野生生物管理)	山村社会と共生して鹿、猪などの野生動物の個体数を適切に管理できる社会																		1
99	13山本先生	6. (資源循環型社会)	循環資源である多様な林産物を持続的に生産し、安定的に消費する社会																		1

番号	作成者	タイトル	コアエレメント	A-1 環境と経済の統合 を目指すアプローチ	A-2 地域共生コミュニ ティ	A-3 エコシステムサービ スの持続的な活用	A-4 地球共生型マイ ンセットの保持	A-5 国際社会の不安定 化	B-1 環境・経済・福祉の 重層的なガバナ ンス(空間軸)	B-2 環境・経済・福祉の 時間的統合(時間 軸)	B-3 環境・経済・福祉の 統合	C-1 エネルギー価格1 バレル300ドルの世 界	C-2 アジアとの共生、日 本の産業の戦略的 撤退	C-3 国土利用の再配 置、戦略的撤退	C-4 持続的幸福	D-1 人口圧力と資源問 題、環境負荷	D-2 脱格差社会: 国土 と心の荒廃を避け る	D-3 リニューアブルな 再生産能力、次の 世代を生まみ出す力	D-4 伝統と技術に基づ た新しい地域主義、 日本の地域社会の デザイン	D-5 中国に何が書ける か? 中国に誇れる日本 (日本の過去経験 とこれからの挑戦)	引用数	
100	13山本先生	7. (コミュニティ)	森林を維持するための山里とそのコミュニティがある社会																		1	
101	14瀬原先生	1. 農林水産業の新生と再生可能エネルギーによる地域分散エネルギー自立社会の構築	休耕田におけるバイオ燃料の生産、バイオリー発電による地熱利用による熱電供給、発電所温排水による豊かな漁場の創成と大規模沖合養殖、循環的な複層林化による人工林の再生と林産物の近代化、自然エネルギー(太陽、風力、潮流)と蓄電(バッテリー)併設による完全なエネルギー自立社会の構築																		1	
102	14瀬原先生	2. シームレスな物流システム	鉄道・港湾・海運の連結と物流情報システムの導入、物流エネルギーの大幅削減、運輸分野の脱石油化、持続可能で高効率な輸送システム などにより交通・運輸の革新を実現する。																		0	
103	14瀬原先生	3. 海洋深層水と海水淡水化による水循環システム	発電所の深層水取水による高効率化、海域の湧昇流誘起と植物プランクトン増殖、海水淡水化による水供給システムと循環、などによる水危機の克服。																		0	
104	14瀬原先生	4. 循環型産業システムによる持続可能性の確保	スクラップ鉄量と国内需要量の接近、高品質な再生鉄 超鉄鋼による鉄循環産業社会の実現、大型発電所のコプロダクションシステム化とゼロエミッション、産業間連携による工業熱のカスケード利用システムなどによる、製造業の循環産業化の徹底																		0	
105	14瀬原先生	5. 大容量二次電池によるエネルギー革命	自然エネルギーの大規模導入、運輸燃料の脱石油化(電気自動車のプラグイン)、民生分野のエネルギー分散自立化、マイクログリッドシステムによる地産地消エネルギーシステム、雇用の拡大と地域経済への貢献																		0	
106	15瀬本先生	[生物多様性の保全]	地域特有の生物相(植物、動物、微生物など)を適切に保全するために、生息地の確保、外来種の侵入防止、乱獲の防止などによって種の絶滅が最低限に抑えられる仕組みの確立。																		1	
107	15瀬本先生	[地域の特性を活かした社会]	歴史的に長年にわたって各地域の風土に適合するように形成された文化(土地利用や産業体系を含む)の利点を活かし、必要以上に環境負荷を与えて世界標準化をしない社会																		1	
108	15瀬本先生	[脱戦争社会]	人道的な観点だけでなく、環境にも多大な負荷を与えるテロや戦争を阻止する国際的な仕組みの完成																		0	
109	15瀬本先生	[フランスのよい国土利用]	食糧生産や木材生産、バイオマス生産(集約的なエネルギー作物の栽培と相対的な木材チップ生産を組み合わせる)などと、生態系機能や生物多様性の保全が両立するような適切な国土利用の推進																		0	
110	15瀬本先生	[脱格差社会]	国際的にも国内的にも社会的な安定性や予測性を大きく低減させるような(特定の集団に不満が蓄積しないような)経済格差や文化格差を拡大しない社会																		2	
111	16若林先生	1. 人口ボーナス(従来人口指数の低下)	生産年齢人口の割合が高く、扶養される老年および年少人口の割合が低い、人口年齢構造の黄金時代で、経済成長に有利 日本は1950 - 1990年 中国は1965-2010年																		0	
112	16若林先生	2. 補充移民(Replacement Migration)	UNFPAの2000年3月の報告、人口規模の縮小、生産年齢人口の減少、人口高齢化を補完するに足る国際的移民、日本は1995年水準の労働力を維持するには1995-2050年に3350万人(年60.9万人)の移民を受け入れる必要と試算。																		0	
113	16若林先生	3. イスラム系人口の爆発	1900年 2億人(全世界人口の12.3%) 1950年 3億1570万人(全世界人口の13.6%) 2000年 12億7603万人(全世界人口の20%) 1900年 19億5000万人(全世界人口の25%)																		0	
114	16若林先生	4. 第二の人口転換(The Second Demographic Transition)	先進諸国の出生率低下、近年は韓国、台湾、香港、シンガポールなど東アジアに広く見られる、人口置換水準の2.1を下回り続け、自然増加率も恒久的にマイナス人口減に、人口のモメンタム(慣性)																		0	
115	16若林先生	5. グローバルエイジング(Global Aging)	21世紀世界人口、途上国も含めた人口高齢化、オールドスト・オールド(80歳以上の後期高齢化)の急増、介護と医療																		0	
116	16若林先生	6. メガシティ	1000万人以上巨大都市の台頭(イスラム系、インド、中南米に)																		0	
117	16若林先生	7. 中国	1) 生態環境問題と環境難民(砂漠化、表土流出、塩害化、草原退化) 2) 退耕還林 2001 - 2005年 870万ha、1999年開始、2002年から正式 還牧還草 2001 - 2005年 1300万ha 3) 政策出生率 TFR 1.465(上海1.06、北京1.086、新疆2.366) 一人っ子政策 2010年まで継続 4) 流動人口と戸籍制度改革 1億4735万人(全人口の11%、2005年) 5) 出生性比不均衡の拡大 1982年108.5 1990年111.3 2000年119.9																			1
118	16若林先生	8. 限界集落	65歳以上高齢者の半数を越え、コミュニティとしての維持を果たせず、消滅の可能性が時間の問題となっている集落。																			1
119	16若林先生	9. 第二の過疎化	移動能力の高い若者、世帯主・妻子が流出(過疎化制定)後、高齢者の寿命により維持されてきた世帯が「ひきとられ転出」等により廃絶しつつある。																			1
120	17事務局	[脱温暖化社会]	重大な温暖化被害を避けつつ、適切な水準での温室効果ガス濃度安定化への路線確立。																		1	
121	17事務局	[資源生産性(資源効率)の高い社会]('もったいない社会)	資源の効率的利用・循環的利用により天然資源の消費、廃棄物の発生が抑制(低減)される社会																		2	
122	17事務局	[生態系サービスの保全]	生態系が有する各種サービス機能とその持続性を確保した社会の形成。																		2	
123	17事務局	[低環境リスク社会]	危険な環境汚染がなく、リスクが十分低く管理された社会の形成																		2	
124	17事務局	[水]	持続可能な社会を形成するために十分な水量・水質の確保																		2	
125	17事務局		合理的なポリシーミックスと各主体の適切な役割分担の下、環境、社会、経済が統合的に向上する社会																		0	
126	17事務局	[環境分野の国際貢献]	先進的な技術・経験をもとに世界に貢献する環境立国																		1	